

研究は、失敗と思考の繰り返し。
その過程で新しい発見がある。



● 福山 透さん (55歳)

安城出身で東京大学教授。2004年アメリカ化学会賞(有機合成化学における独創的研究に対する賞)を受賞。1957年の同賞創立以来、日本人としては4人目の受賞者です。

レッシュユできるような人でないとできないかもしれませんね。

■福山さんにとって研究とは何でしょうか。また、面白さは？

高度に知的なゲームであり、趣味みたいなものです。毎日違うことに取り組む日替わりの面白さというものがありません。

■海外での生活が22年間だったそうですが、現在は？

平日は東京、週末は安城に帰って来ます。安城生まれの安城育ちですから、やはり故郷はいい、ほっとするところがありませんよ。退職したらこちらに戻ってくるでしょう。

■週末には何をなやしているんですか？

趣味の弓道や面白い物ですね。弓道は、安城市弓道会に入り、楽しくやっています。忙しくてなかなかできないのが残念です。

■未来の研究者を目指す子どもたちに一言お願いします。

小学校くらいのおきに面白いことを経験することが大切だと思います。勉強ばかりやってもダメで、何が本当に面白いかは自分で経験してみないとわかりません。

■今後、取り組みたいことは？

役に立つようなこと、例えば癌の薬を開発したい。その方向に進みつつあります。そういういい物が見つかるといいな、そのための努力を怠ってはいけないなと思っています。

■受賞おめでとございます。どのような点が評価されたのでしょうか。

わたしの専門は、有機合成化学です。抗がん作用や抗ウイルス作用など医薬的に興味深い活性があり、構造的にも複雑な有機化合物をいかに独創的かつ効率よく合成するかというのがメインテーマで、合成の過程で発見した反応がほかの研究者にとっても有用であった。それらのことが今回の受賞対象となりました。わたしがやっていることは、三次元の分子の

設計から施工にかかわる建築家みたいなものです。

■研究での苦労はありますか？

苦労はあまり感じないですね。実験はうまくいかなくて当たり前。失敗したらなぜ失敗したかを考え、やり直す。その繰り返しです。がっかりすることはありません。逆に、うまくいかないときの方が集中していて、一番苦労しているときが一番おもしろい。結構、楽天的なんです。この仕事は、一晩寝ればすぐにリフ